

まほろば秦野通信

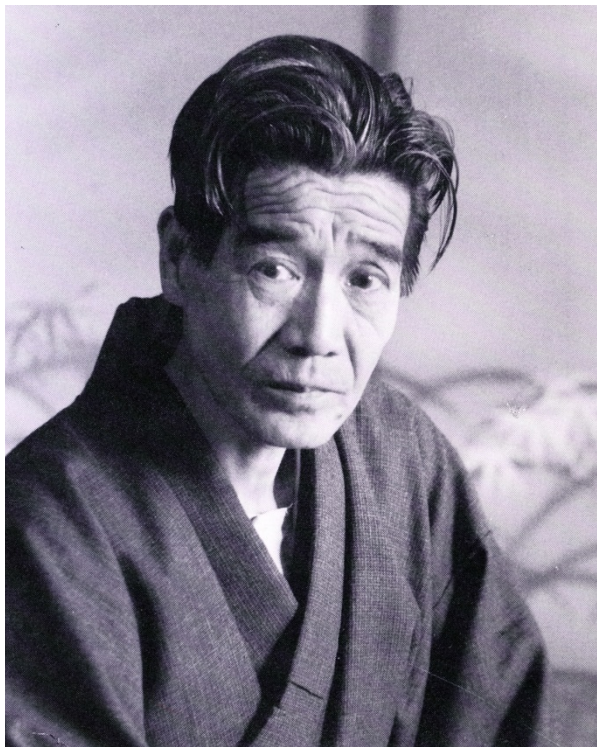
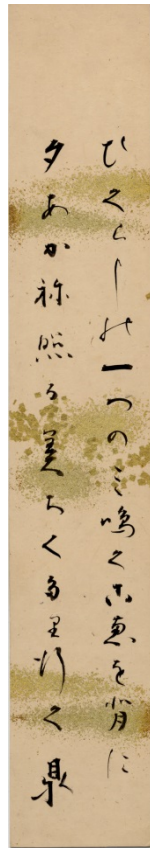
平成28年8月24日

秦野市市長公室広報課

タイトル	参加者募集 丹沢の風土が育んだ歌人の世界へ 谷 鼎（たに かなえ）生誕120年記念講演会
When (いつ)	9月17日（土曜日） 午後1時半～3時
Where (どこで)	秦野市立図書館 視聴覚室（平沢94番地の1）
Who (だれが)	講師 山田 吉郎 氏 (歌人、鶴見大学短期大学部国文科教授)
What (なにを) How (どのように)	<p>秦野ゆかりの歌人で国文学者であった、谷 鼎（たに かなえ）の生誕120年を記念して、秦野に滞在した時期に詠んだとされる歌を中心に講師に解説をしていただきます。</p> <p>テーマ 谷鼎と丹沢の風土 定員 80人（申込み先着順） 申込方法 図書館へ電話で申込む。電話0463（81）7012 受講料 無料</p> <p>谷鼎は、明治29年（1896）9月16日に谷鼎次郎の長男として生まれ、西秦野村千村（現在の秦野市千村）にて幼少年期を過ごし、中郡西秦野村立尋常高等渋沢小学校に学び、明治44年に神奈川県師範学校に入学。その後、東京高等師範学校に進み、卒業後、新潟師範学校、続いて神奈川県師範学校の教師となるが、27歳のときに京都帝国大学文学部文学科に入学しました。</p> <p>大学卒業後は、東京府立第五中学校（現在の小石川高校）の教師となる傍ら、万葉・古今・新古今等の和歌研究を精力的に行い、あわせて窪田空穂の短歌誌「国民文学」の歌人として頭角をあらわします。</p> <p>昭和26年、大東文化大学の教授に就任。和歌研究の大家として活躍するようになりますが、昭和35年（1960）7月15日、突然の輪禍のため急逝しました。</p>
Why (なぜ)	講演会の開催等により、図書館所蔵の資料に親しむ機会を広く提供し、その活用を図ります。
問い合わせ	教育部図書館庶務奉仕担当 担当：山口 電話0463（81）7012

谷鼎生誕一二〇年記念講演会

谷鼎と丹沢の風土



たにかなえ
谷鼎肖像（昭和26年）

谷鼎直筆短冊
渋沢駅歌碑の歌

日時

平成28年9月17日（土）

午後1時30分～3時

講師

山田吉郎氏

（歌人、鶴見大学短期大学部教授）

会場

図書館2階 視聴覚室

定員 80人（申込み先着順）

問い合わせ・申込み先 秦野市立図書館

秦野市平沢94-1 電話 0463-81-7012

※ 申込みは平成28年8月16日から受け付けます。

谷鼎 (たに かなえ)

谷鼎は明治29年(1896)9月16日に生まれました。鼎は、西秦野村千村(現在の秦野市千村)に幼少年期をすごしました。父・谷鼎次郎は大地主であり、中郡の代議士を務め、白山神社の宮司も引き受けるなど地元の名士でもありました。

鼎は、中郡西秦野村立尋常高等渋沢小学校に学び、明治44年に神奈川県師範学校に入学、その後、東京高等師範学校に進み、卒業後、新潟師範学校、続いて神奈川県師範学校の教師となるが、27歳のときに京都帝国大学文学部文学科に入学しました。

大学卒業後は、東京府立第五中学校(現在の小石川高校)の教師となり、昭和22年までつとめることとなります。

万葉・古今・新古今等の和歌研究を精力的に行い、あわせて窪田空穂の短歌誌「国民文学」の歌人として頭角をあらわしていくこととなります。

昭和26年、谷鼎は大東文化大学の教授に就任。和歌研究の大家として活躍するようになり、昭和30年12月、短歌誌「近代詩歌」を創刊し、鼎は短歌を発表するほか、古典研究や評論、会員の歌作の悩みに答える「作歌余録」を連載するなど旺盛に活躍しました。

昭和35年(1960)7月15日、突然の輪禍のため急逝。



丹沢のやまなみ



渋沢駅南口 谷鼎歌碑

講師 山田吉郎 氏

歌人、歌誌「ぷりずむ」選者、鶴見大学短期大学部教授、文学博士、
現代歌人協会会員

歌集『蝶の記憶』、『実朝塚の秋』、『猫坂物語』

著書『前田夕暮の文学』、『前田夕暮—受容と創造—』、『前田夕暮百首』(編)
『丹沢の文学往還記』、『朔北の雲』、『明治短歌の河畔にて』ほか

申込み・お問い合わせ…秦野市立図書館 電話0463(81)7012